

第九講 エトルリア人

起源論：ヘロドトス：リュディア人説

ハリカルナッソスのディオニュシオス：土着説

北方起源説：ニューブール、ミュラー

ヴィラノヴァ文化とドナウ川流域との類似

東方起源説：多数説

前7世紀の東方化様式の流入

従来の火葬に代わって土葬へ

1885年、レムノス島で発見された石碑（エトルスキ語と類似）

女性の高い地位とか宗教的態度・占いの類似

土着説：古イタリア人の言語よりも古い言語層の存在＝それがエトルリア人

最近のイタリアの研究者の説

文化や葬制の変化は民族の変化を意味しない

歴史：

前7～6世紀：海上活動の最盛期

チェルヴェテリ・タルクイニア・ヴルチ・ヴェトロニア・ポプロニア出土の象牙製品・貴金属製品・外国産土器

南イタリア・サルディニア・シチリア・キプロス・ギリシア・小アジア出土のエトルリアの青銅器やブツケロ

北アフリカ・フランス・スペイン・イギリス・北ヨーロッパでも出土

小麦・葡萄酒・オリーブ油・木材・鉄（エルバ島産の鉄鋼原石の精練と加工（特にポプロニア）・鉄・銅・鉛を含むトルファ山塊やヴェトロニアの丘

南部への発展

ラティウムの一部、特にローマがその勢力圏に入る
海路による勢力拡大>ストラボンの証言：「エトル
リア人はポンペイとヘルクラネウムを占領してい
た。」<ポンペイのアポロン神殿の下からエトルリ
ア語を刻んだブッケロの破片出土、城壁下部や建物
の基礎部分にエトルリア時代の物の発掘
カプア・アチェルラ・ノーラ・ノチェラ・ヘルクラ
ネウム・ポンペイ・サレルノ等南部植民都市の都市
連合？

540年：コルシカのアラリアの海戦>コルシカ全島
占領とニカイアの建設

524年：クマエを包囲<ウンブリア人やダウニ人傭
兵>失敗

北部への進出（6世紀に始まる）

南フィエゾレ建設=拠点

12の植民都市建設

アルプス以北の地との交易活発

スピーナを通してギリシアと交易

ローマ支配：616~510年

アックス=マルキウスよりタルクィニウス=プリスク
ス（デマラトスの子ルクモ）

ルクモ=王

セルウィウス=トゥリウス<エトルスク名マスタルナ
ウィベンナ兄弟と共にブルチを去り、篡奪

タルクィニウス=スペルブス：ユピテル神殿建設（三
神合祀：ティニア・ウニ・メネルワ）・クロア
カ=マクシマ建設・王冠・緋色のトガ・ファス
ケス輸入・競馬・剣闘士の見世物

エトルスキの衰退

510年 ローマ喪失？>エトルリア本土と南部植民諸都市と

の陸上交通線を失う

474年 クマエ沖海戦＞海軍の敗退＞南部の孤立化

432年 サムニウム人のカプア占領

海上活動の衰微＞海岸諸都市の貧困化

384年 シラクサによるチェルヴェテリ襲撃

内陸諸都市の繁栄（5～4世紀）

ケルト人の侵入

390年 メルボ陥落

350年頃 ボローニャ降伏

ローマの圧力の下で

425年 フィーデーナエ陥落

406～396年 ウエイイ陥落

351年 チェルヴェテリの脱落＞ローマの自治都市化

311～308年 エトルリア連合、ローマの軍門に下る

299年 独立を辛うじて有していた諸都市、サムニウム人と呼
応して、ウンブリア人・ガリア人と同盟して反乱

（～294年）

最後のエトルリア人の勢力はブルチとヴォルシーニ

280年 ヴォルシーニの降伏

ブルチ降伏

264年 ヴォルシーニの内乱＞ローマ軍の介入＞略奪と破
壊・住民の追放

ローマの名目的な同盟都市に転落